



E-Mail : nfdj@zenkoku-kowan.jp

全国港湾

NATIONAL FEDERATION OF DOCKWORKERS UNIONS OF JAPAN (ZENKOKU-KOWAN)

（発行所）
全国港湾労働組合連合会
〒144-0052 東京都大田区蒲田5-10-2
日港福会館1F
電話：03-3733-2561
FAX：03-3733-2627
発行人：玉田雅也
定価：30円（組合費を含む）

（毎月1回15日発行・平成7年8月18日）
第三種郵便物認可
2015年6月15日 第267号

世界の港湾労働者と船員が「団結」と「連帯」を誓う 国際物流の変化に「組織化」で果敢にチャレンジを！ 労働組合権の否定・組合潰しを許さず！！

二〇一五年五月十四日、パース（豪州）においてITF（国際運輸労働連）港湾部会、公正慣行委員会が開催され、全国港湾から、糸谷委員長、玉田書記長が参加した。会議は、昨年開催の世界大会での決議に基づく運動の検証とその後の新たな課題についての対応方針を確認、意思統一した。

会議では、ターミナル運営や労働者の働き方への船社の介入が現在の特徴で、強い警戒感が語られた。その背景に「国際港湾資本（GNT）」と「労働組合権の否定」、「ITF組合潰し」があり、国際連帯による組織化と国際資本を国際産別協定によって規制していくことの重要性を意思統一した。

（組織化へのチャレンジー港湾部会）
域として絶対に譲れない問題あり、荷役の安全にかかわる問題として、船員サイドにも取り組み強化を強く求め、POCキャンペーンでの反撃とともに、船社が船員のラッシュンクを促進していることを阻止する決議を採択した。

（全国港湾の発言）
船社の横暴を許さな領域確保の要求を掲げた。また、イギリスでのドバイポートにおける組織化の運動、ロッテルダム港での自動化に対する取り組みなども報告された。

注目する点として、世界の港で船員によるラッシュンク作業が広がっていることであった。港湾労働者の職

域として絶対に譲れない問題あり、荷役の安全にかかわる問題として、船員サイドにも取り組み強化を強く求め、POCキャンペーンでの反撃とともに、船社が船員のラッシュンクを促進していることを阻止する決議を採択した。

（全国港湾の発言）
船社の横暴を許さな領域確保の要求を掲げた。また、イギリスでのドバイポートにおける組織化の運動、ロッテルダム港での自動化に対する取り組みなども報告された。

注目する点として、世界の港で船員によるラッシュンク作業が広がっていることであった。港湾労働者の職

域として絶対に譲れない問題あり、荷役の安全にかかわる問題として、船員サイドにも取り組み強化を強く求め、POCキャンペーンでの反撃とともに、船社が船員のラッシュンクを促進していることを阻止する決議を採択した。

（全国港湾の発言）
船社の横暴を許さな領域確保の要求を掲げた。また、イギリスでのドバイポートにおける組織化の運動、ロッテルダム港での自動化に対する取り組みなども報告された。

注目する点として、世界の港で船員によるラッシュンク作業が広がっていることであった。港湾労働者の職

域として絶対に譲れない問題あり、荷役の安全にかかわる問題として、船員サイドにも取り組み強化を強く求め、POCキャンペーンでの反撃とともに、船社が船員のラッシュンクを促進していることを阻止する決議を採択した。



を図り、港湾部会として国際的な枠組み協定を目指すことを確認した。

（安全基準の強化を）
安全衛生について、コンテナ重量に関する運動を強めてきたこと、SOLA S条約の改正に連動した重量証明を強化する取り組みが、各国の実情と合わせ報告、確認された。日本からは、コンテナ重量証明とともに、フレキシブルバックからの油漏れ事故を例に、コンテナ重量と固縛、事故を未然に防ぐ輸送方法の見直しについて発言した。

（公正慣行委員会）
この委員会は、FOC・POCキャンペーンを中心として、船員と港湾の職場・労働環境を、共同の課題として運動していく委員会、ITFの大きな柱となっている。会議では、とくに船員のラッシュンク問題が港湾から強調され、船員組合は積極的に取り組むよう特別な運動の強化が提起され、確認した。

ITF活動は、その国際性から身近に感じられないかもしれない。しかし、マースターミナルで日本が労働協約を持っていないこと、自動化の問題で産別協定をもっていることなど、日本の活動が世界の仲間を励ましていくことも事実である。同時に、ITF本部からの全国港湾への期待も高い。次代を担う全国港湾の仲間が、国際活動に関心をもち、国際会議に参加する機会を作っていくべく、年度方針を討議していることを紹介して報告とする。

第六講座は、玉田書記長より講演を受けた。産別協定の重要性を再認識することでは、協定書本文を参照し、文章をひもとく丁寧な解説・説明を聞いた。

講演の最後に、産別協定と自社の協定を見比べ、「魅力ある港湾労働の確立」のため奮闘しようと呼びかけた。閉会セレモニーでは、糸谷委員長は「労働組合運動は継続である。継続して更に発展させなければならぬ。この労働セミナーで団結がさらに強化できたことと思う。また、講座で学んだことを、今後生かしていただこう。現場の仲間の皆様と楽しく、活動を継続していただくことを願う」と述べ、「団結カンパニー」の三唱で終了した。

「海事円卓会議」を行い、ここで次代を担う組合役員が育ち、今後の運動に積極的な役割を果たすことを確認した。

ITF活動は、その国際性から身近に感じられないかもしれない。しかし、マースターミナルで日本が労働協約を持っていないこと、自動化の問題で産別協定をもっていることなど、日本の活動が世界の仲間を励ましていくことも事実である。同時に、ITF本部からの全国港湾への期待も高い。次代を担う全国港湾の仲間が、国際活動に関心をもち、国際会議に参加する機会を作っていくべく、年度方針を討議していることを紹介して報告とする。

第六講座は、玉田書記長より講演を受けた。産別協定の重要性を再認識することでは、協定書本文を参照し、文章をひもとく丁寧な解説・説明を聞いた。

講演の最後に、産別協定と自社の協定を見比べ、「魅力ある港湾労働の確立」のため奮闘しようと呼びかけた。閉会セレモニーでは、糸谷委員長は「労働組合運動は継続である。継続して更に発展させなければならぬ。この労働セミナーで団結がさらに強化できたことと思う。また、講座で学んだことを、今後生かしていただこう。現場の仲間の皆様と楽しく、活動を継続していただくことを願う」と述べ、「団結カンパニー」の三唱で終了した。

「海事円卓会議」を行い、ここで次代を担う組合役員が育ち、今後の運動に積極的な役割を果たすことを確認した。

ITF活動は、その国際性から身近に感じられないかもしれない。しかし、マースターミナルで日本が労働協約を持っていないこと、自動化の問題で産別協定をもっていることなど、日本の活動が世界の仲間を励ましていくことも事実である。同時に、ITF本部からの全国港湾への期待も高い。次代を担う全国港湾の仲間が、国際活動に関心をもち、国際会議に参加する機会を作っていくべく、年度方針を討議していることを紹介して報告とする。

組合運動を学習する

第二回全国港湾労働セミナーは、六月三日（水）午後から五日（金）午前にかけて豊橋市「シーパレスリゾート」において、各埠組、地区港湾から八十四名の参加と、講師や役員、実行委員を含め総勢九十九名で開催された。

セミナーは六回の講座を聴講し途中、レクリエーションのボウリングゲームを挟み、最後に感想文を提出し、組合運動を学習する意義ある三日間となった。

開会式は、糸谷委員長の挨拶で始まり、第一講座は、新垣さんから講演を受けた。

安倍首相は、「戦争する国づくり」を進めている。一つは安保法制、二つ目は消費増税、三つ目は憲法改正の道筋などである。一方、メディア対策を行っており新聞社の良悪で、対応が違っている。特定機密保護法で、報道現場への影響、記者の委縮が懸念される。

安倍首相は、「戦争する国づくり」を進めている。一つは安保法制、二つ目は消費増税、三つ目は憲法改正の道筋などである。一方、メディア対策を行っており新聞社の良悪で、対応が違っている。特定機密保護法で、報道現場への影響、記者の委縮が懸念される。

安倍首相は、「戦争する国づくり」を進めている。一つは安保法制、二つ目は消費増税、三つ目は憲法改正の道筋などである。一方、メディア対策を行っており新聞社の良悪で、対応が違っている。特定機密保護法で、報道現場への影響、記者の委縮が懸念される。

安倍首相は、「戦争する国づくり」を進めている。一つは安保法制、二つ目は消費増税、三つ目は憲法改正の道筋などである。一方、メディア対策を行っており新聞社の良悪で、対応が違っている。特定機密保護法で、報道現場への影響、記者の委縮が懸念される。

「海事円卓会議」を行い、ここで次代を担う組合役員が育ち、今後の運動に積極的な役割を果たすことを確認した。

ITF活動は、その国際性から身近に感じられないかもしれない。しかし、マースターミナルで日本が労働協約を持っていないこと、自動化の問題で産別協定をもっていることなど、日本の活動が世界の仲間を励ましていくことも事実である。同時に、ITF本部からの全国港湾への期待も高い。次代を担う全国港湾の仲間が、国際活動に関心をもち、国際会議に参加する機会を作っていくべく、年度方針を討議していることを紹介して報告とする。

第六講座は、玉田書記長より講演を受けた。産別協定の重要性を再認識することでは、協定書本文を参照し、文章をひもとく丁寧な解説・説明を聞いた。

講演の最後に、産別協定と自社の協定を見比べ、「魅力ある港湾労働の確立」のため奮闘しようと呼びかけた。閉会セレモニーでは、糸谷委員長は「労働組合運動は継続である。継続して更に発展させなければならぬ。この労働セミナーで団結がさらに強化できたことと思う。また、講座で学んだことを、今後生かしていただこう。現場の仲間の皆様と楽しく、活動を継続していただくことを願う」と述べ、「団結カンパニー」の三唱で終了した。

「海事円卓会議」を行い、ここで次代を担う組合役員が育ち、今後の運動に積極的な役割を果たすことを確認した。

ITF活動は、その国際性から身近に感じられないかもしれない。しかし、マースターミナルで日本が労働協約を持っていないこと、自動化の問題で産別協定をもっていることなど、日本の活動が世界の仲間を励ましていくことも事実である。同時に、ITF本部からの全国港湾への期待も高い。次代を担う全国港湾の仲間が、国際活動に関心をもち、国際会議に参加する機会を作っていくべく、年度方針を討議していることを紹介して報告とする。

第六講座は、玉田書記長より講演を受けた。産別協定の重要性を再認識することでは、協定書本文を参照し、文章をひもとく丁寧な解説・説明を聞いた。

講演の最後に、産別協定と自社の協定を見比べ、「魅力ある港湾労働の確立」のため奮闘しようと呼びかけた。閉会セレモニーでは、糸谷委員長は「労働組合運動は継続である。継続して更に発展させなければならぬ。この労働セミナーで団結がさらに強化できたことと思う。また、講座で学んだことを、今後生かしていただこう。現場の仲間の皆様と楽しく、活動を継続していただくことを願う」と述べ、「団結カンパニー」の三唱で終了した。

「海事円卓会議」を行い、ここで次代を担う組合役員が育ち、今後の運動に積極的な役割を果たすことを確認した。

ITF活動は、その国際性から身近に感じられないかもしれない。しかし、マースターミナルで日本が労働協約を持っていないこと、自動化の問題で産別協定をもっていることなど、日本の活動が世界の仲間を励ましていくことも事実である。同時に、ITF本部からの全国港湾への期待も高い。次代を担う全国港湾の仲間が、国際活動に関心をもち、国際会議に参加する機会を作っていくべく、年度方針を討議していることを紹介して報告とする。

第六講座は、玉田書記長より講演を受けた。産別協定の重要性を再認識することでは、協定書本文を参照し、文章をひもとく丁寧な解説・説明を聞いた。

講演の最後に、産別協定と自社の協定を見比べ、「魅力ある港湾労働の確立」のため奮闘しようと呼びかけた。閉会セレモニーでは、糸谷委員長は「労働組合運動は継続である。継続して更に発展させなければならぬ。この労働セミナーで団結がさらに強化できたことと思う。また、講座で学んだことを、今後生かしていただこう。現場の仲間の皆様と楽しく、活動を継続していただくことを願う」と述べ、「団結カンパニー」の三唱で終了した。

「海事円卓会議」を行い、ここで次代を担う組合役員が育ち、今後の運動に積極的な役割を果たすことを確認した。

ITF活動は、その国際性から身近に感じられないかもしれない。しかし、マースターミナルで日本が労働協約を持っていないこと、自動化の問題で産別協定をもっていることなど、日本の活動が世界の仲間を励ましていくことも事実である。同時に、ITF本部からの全国港湾への期待も高い。次代を担う全国港湾の仲間が、国際活動に関心をもち、国際会議に参加する機会を作っていくべく、年度方針を討議していることを紹介して報告とする。

安倍政権が振りまく政策の正体を覗いてみた▼「マインパー制度」。新たに導入される社会保障・税番号制度。政府は各種行政手続きが便利になると言うが、本当の狙いは国民への監視強化だ。先行している米国や韓国では、個人情報漏えいや、他人が本人になりすます事件が多発している。うっかり信じて泣きを見ることに▼派遣法改正では、「正社員への道を開く」とアピールしている。しかし、法案を読むと、そんな保障はどこにもない。せいぜい派遣先企業に正社員化を打診する程度だ。実際は、企業が派遣を使い続けられるようにするためのもの。労働者には「生涯ハケン」という未来が待っている▼労基法改正では、政府は高度な技能を持つ人材を対象に成果で賃金を決める制度を導入すると言っている。ところが法案には成果主義の規定はなく、労働時間の規制を外すことだけが書かれている。「残業ゼロ」「過労死促進」が本質だ▼アベノミクスについて、株価は上昇したが、円安による物価上昇で家計は苦しくなっている。新聞の調査では、七八%が「景気回復の実感なし」と答えている。「成長戦略」は医療や労働など暮らしに関わる分野を儲け本位に変えることが柱。大企業にだけ優しい政策だ。